



上智大学 言語科学研究科 渡部良典 教授が来学されました



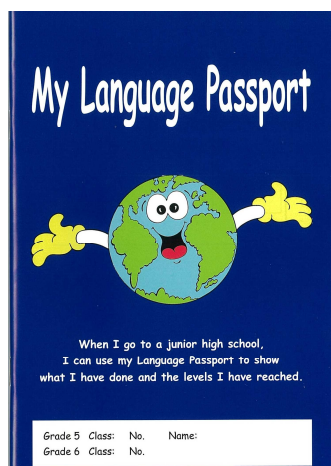
平成28年9月7日と8日に、言語教育評価が専門でいらっしゃる、上智大学の渡部良典教授に、鳴門教育大学及び附属小学校をご訪問いただきました。大学では大学院生に「評価」についての講義をしていただき、院生は深い学びの機会を得ました。附属小学校では、本年度から高学年で英語を教科として立ち上げ、試験的に授業が行われています。渡部先生には5、6年生の授業を参観していただき、今後の小学校英語の教科化を見据えた評価の在り方についてご意見いただきました。

本校英語科での評価方法のひとつとして、センターが作成した冊子My Language Passportを持たせています。これは、児童と教員が単元のはじめにListening, Speaking, Reading, Writing, Cultureの5つの観点で目標を立て、単元の終わりに達成度に合わせて色を塗り、自分自身の取り組みを振り返ることができるようにするものです。そして、これは「中学校」へのパスポートになります。

渡部先生からは、「一人一人が目標を達成するために、どのように活動に取り組めばいいのか」という明確な目的をもって授業に参加できるのが、この取り組みの良い所だ」という肯定的なご意見をいただきました。また、「教師にとっても、明確な目標があることで、見通しをもって授業を計画したり、子どもたちの目標に合う活動を設定できる」とおっしゃっていただきました。そして、今後より良くこの取り組みを続けるためには、「児童が目標に向かって取り組んでいる過程にも注目し、一人一人の成長を評価する必要がある」とご助言いただきました。さらに、「自己評価のみではなく、ALTを含めた教師や友だちからの他者評価、そしてその評価を元にもう一度自己を見つめ直すという評価の方法」についても教えて頂きました。

限られた時間の中で、自己評価をする時間を確保することも難しいのが現状ですが、英語を教科として行う以上、評価規準を明確にすることは必要だと思います。本校でも今後、教師や友だちからの他者評価の方法や、その活用方法などを検討し、実践していきたいと思っています。

(畑江、鳴門教育大学 附属小学校 英語科主任教諭 青山祥子、小学校英語教育センター 研究補佐員 段本みのり)





8

小・中学校英語教育研修 のための講師派遣

洲本市立 堺小学校



兵庫県洲本市立堺小学校で、平成28年7月28日（水）午前中に、教職員研修会を実施しました。堺小学校の教員研修の内容は、1. 楽しく学ぶ英語授業展開例、2. 各学年年間カリキュラムの編成、3. 全校児童で取り組む外国語活動の事例 についてでした。具体的に、授業展開の事例では「授業の固定化」についてお話をしました。「授業の固定化」は、小学校教員が外国語活動の授業を取り組みやすい一つの授業展開例と考えているからです。また、堺小学校では、低学年から外国語活動を実施しておりますので、どのように年間活動計画を編成していくかについても事例を示しながら提案いたしました。更に、複式学級における外国語活動の方法にも関心を示されたので、小学校全体で取り組む全校外国語活動の事例も示しました。

外国語活動の理論的な側面ばかりでなく、具体的に授業で役立つような方法を堺小学校の教員と一緒に試みました。実際に小学校教員が「お寿司屋さんごっこ」を体験したり、ゲームや歌の活動を体験したりしました。

堺小学校校長先生から、「学期ごとに教員研修をして、質の高い外国語活動を児童に提供したい。そのために、今後は指導助言をしてほしい。」といわれました。

（石濱）

阿南市立 伊島小学校

On September 27th I spent the day at Ishima Elementary School on Ishima Island, about a 30 minute ferry ride south of Anan City. I was able to observe two English lessons, before conducting a workshop with the teachers. Located well-passed Cape Gamouda, this fishing island is a place of rugged beauty in the middle of the sea.

The teachers and students, as well as people in the town, made my visit especially enjoyable. On hearing that there would be a visitor, one of the local people gave the school several 'iseebi' for the school lunch. The teachers also, were very friendly and they have been doing very fun, interesting things in their English lessons. There are only around ten students, so the school and indeed, the whole community is very small and tight-knit and therein lies its appeal. In this globalized modern world, schools and communities are becoming more and more homogenized. Local cultures are becoming less relevant as a wave of suburban sameness spreads across the country (and probably the world). It is really nice to visit a place that has held on to its cultural uniqueness and distinction. I always look forward to visiting smaller schools in remote areas and I especially look forward to visiting Ishima Island again.

（ジェラード マーシェソ）

